

1 森林資源の現状

- ◇ 本県の森林面積は34万7千haで県土の78%を占め、国有林5千ha(1%)、県有林15万3千ha(44%)、民有林18万9千ha(55%)から構成されている。
- ◇ 森林資源の構成は、人工林15万3千ha、天然林17万2千ha、その他2万2千ha。人工林の年齢構成は、8年齢級以上が79%であり、伐期に達した森林の占める割合が増加している。

森林面積と森林比率

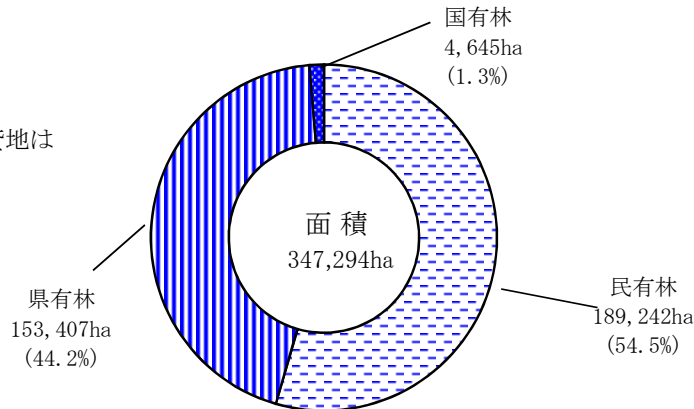
全 国	山 梨	
37,795 千ha	総 面 積	446,537 ha
25,097 千ha	森 林 面 積	347,294 ha
66.4 %	森 林 比 率	77.8 %

資料：全国総面積は、国土地理院調査「国土面積公表値(平成22年度)」
 全国森林面積は、2011「森林・林業統計要覧」(林野庁編)
 山梨県総面積は、「山梨県統計年鑑」(平成22年刊行)
 山梨県森林面積は、森林整備課の業務資料(国有林含む)

所有形態別森林面積と蓄積

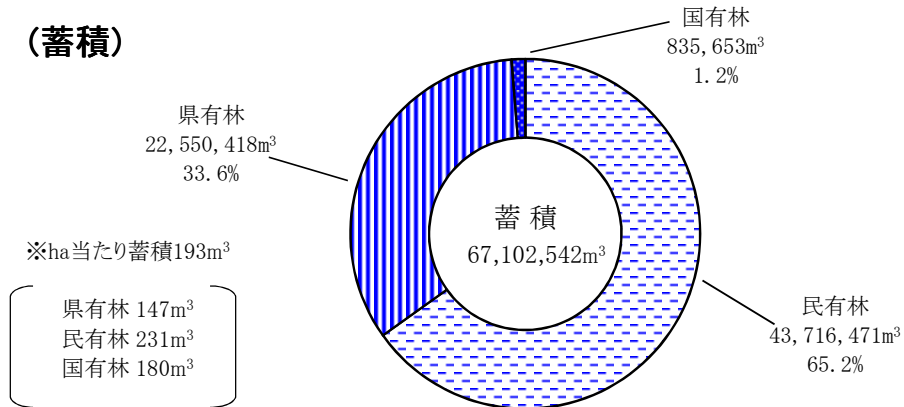
(面積)

※県有林植樹用貸地は
民有林に含む。



(蓄積)

※ha当たり蓄積193m³



県有林 147m³
 民有林 231m³
 国有林 180m³

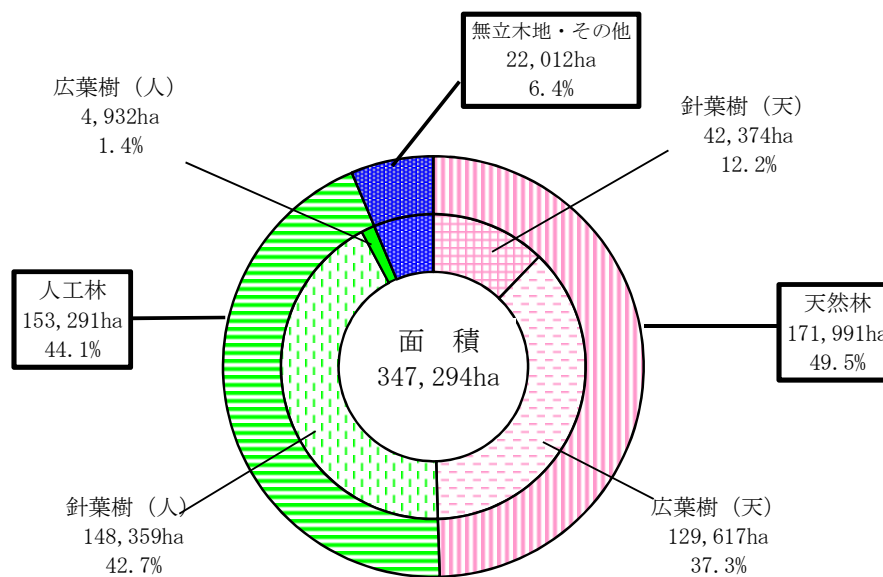
人工林面積と人工林率

全 国	人 工 林 面 積	山 梨
10,347 千ha		153,291 ha
41.2 %	人 工 林 率	44.1 %

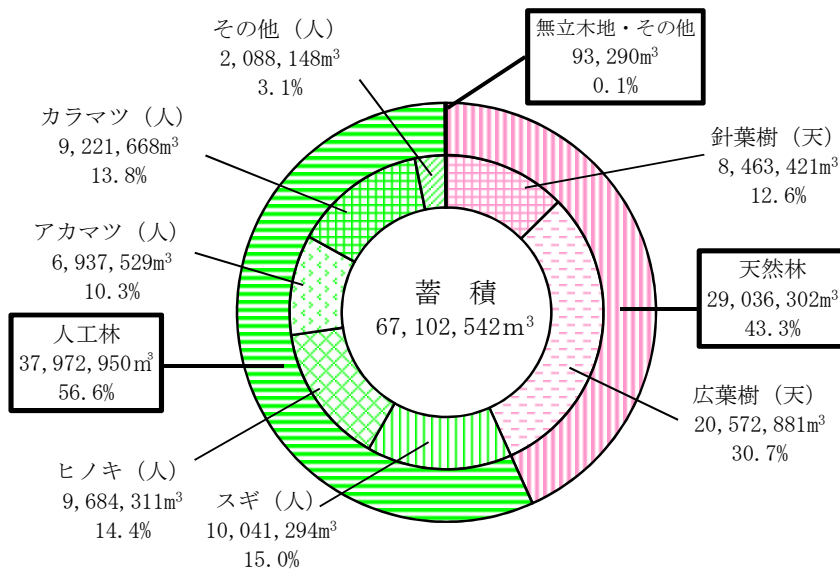
資料：全国の人工林面積は、2011「森林・林業統計要覧」（林野庁編）
山梨県の人工林面積は、森林整備課の業務資料（国有林含む）

林種別・樹種別面積と蓄積

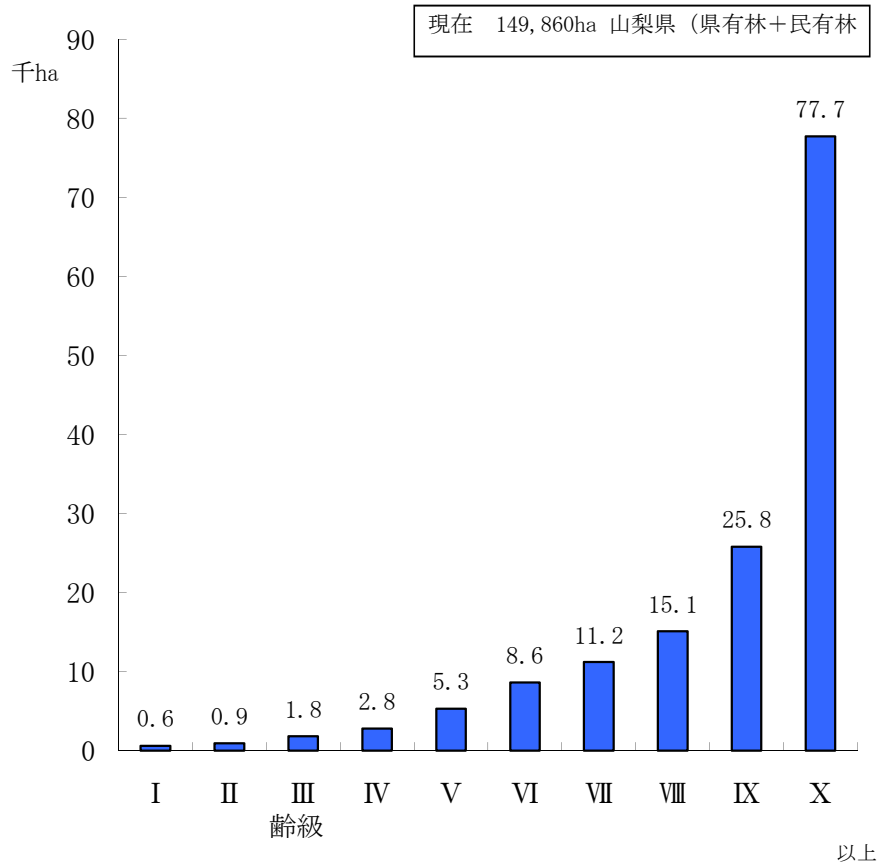
(面積)



(蓄積)



齡級別人工林面積



構成比

	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
山梨県	0	1	1	2	4	6	7	10	17	52%
全 国	1	2	2	3	6	9	11	15	16	

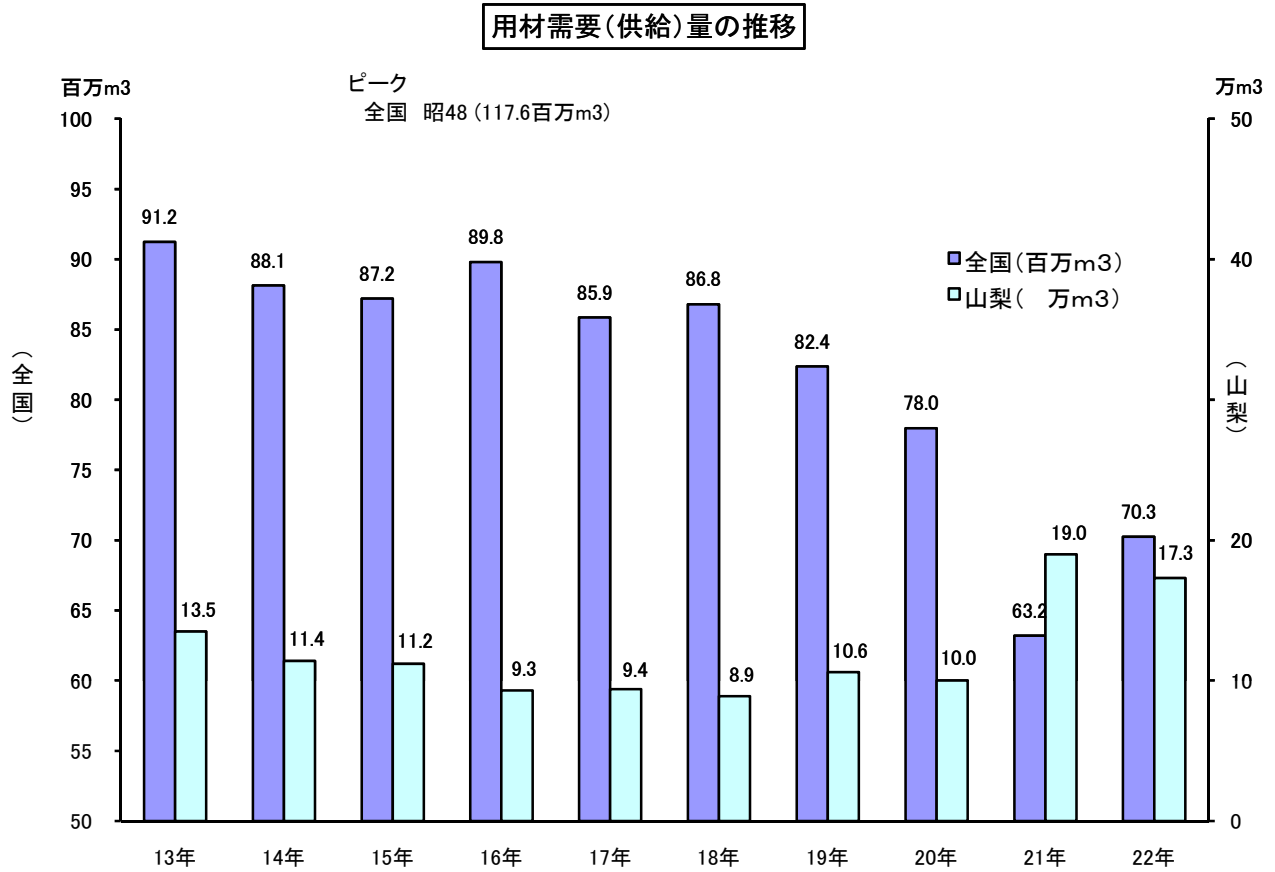
構成比（山梨県）

III 齡級以下	2%
IV～VII（間伐期）	19%
VIII 齡級以上	79%

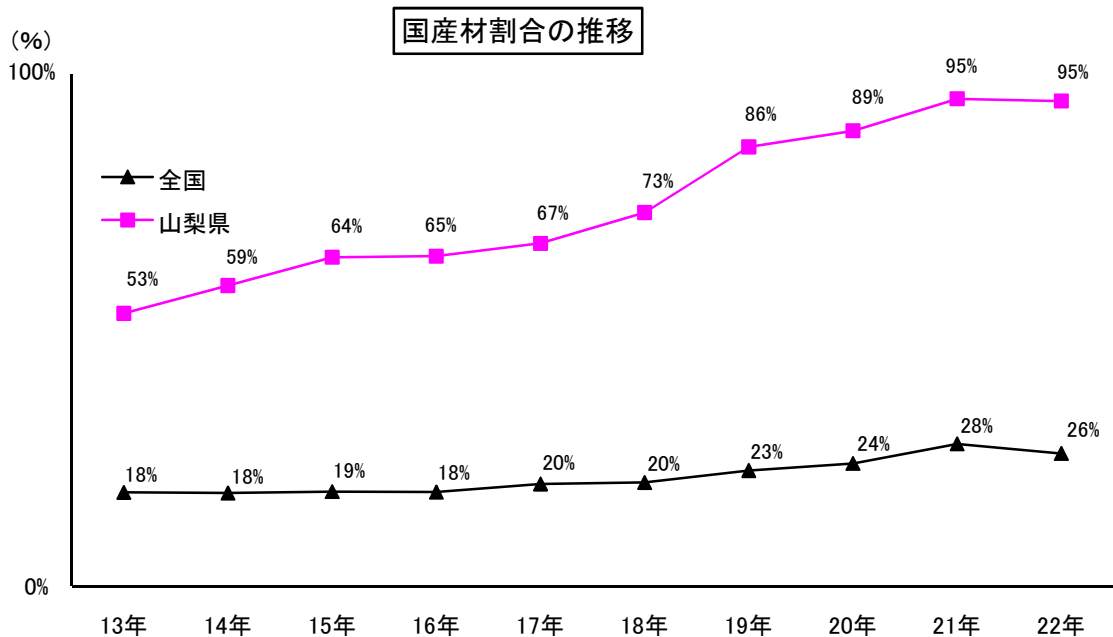
資料：全国は、2011「森林・林業統計要覧」（林野庁編）
 山梨県は、森林整備課の業務資料（国有林除く）

2 木材需給量と材価

- ◇ 本県の木材（素材）需給量は、近年増加傾向にあり、平成22年は173千m³となっている。その内訳は、木材チップ等が大きく増加したもので、逆に製材は減少している。
- ◇ 本県の製材用素材供給量に占める国産材の割合は増加の傾向にある。

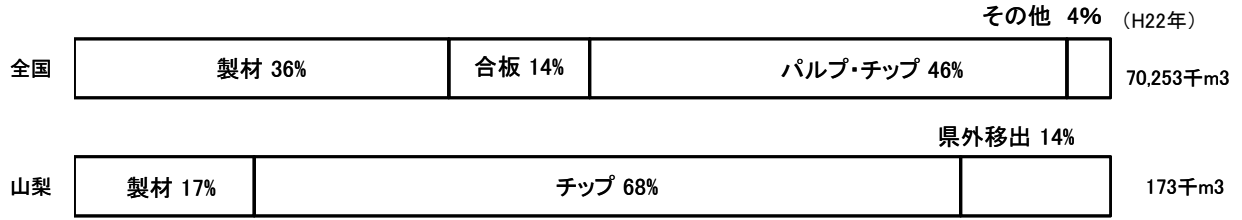


注：需給量には、製材品、木材パルプ、合板、薪炭材等の丸太以外の形態で輸入されたものについて、丸太材積に換算してカウントしている。

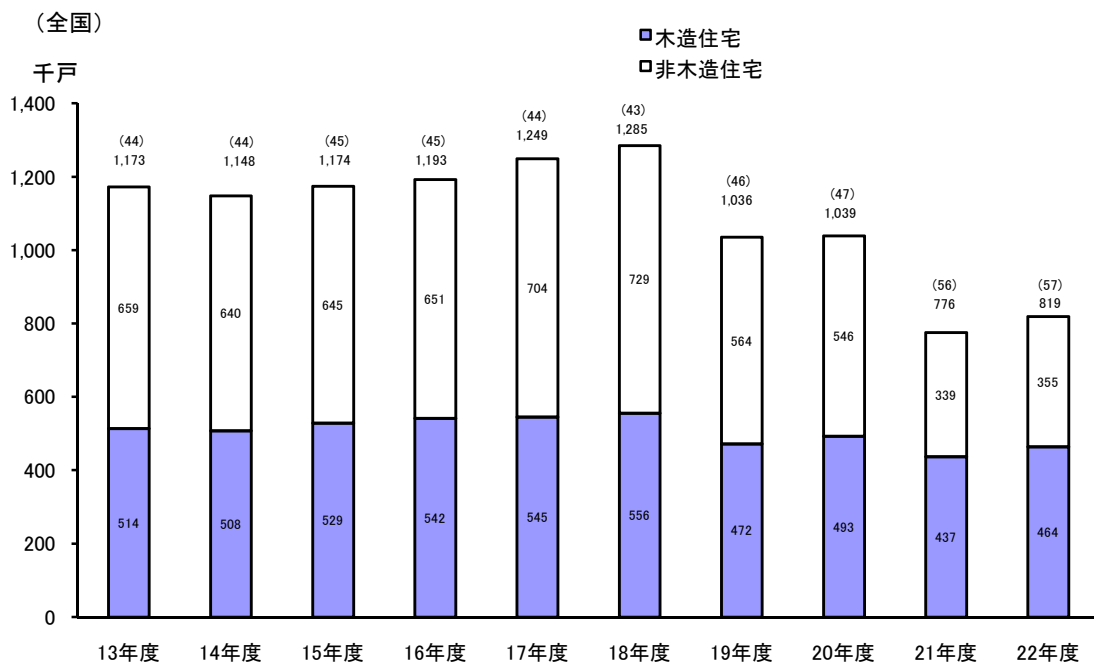
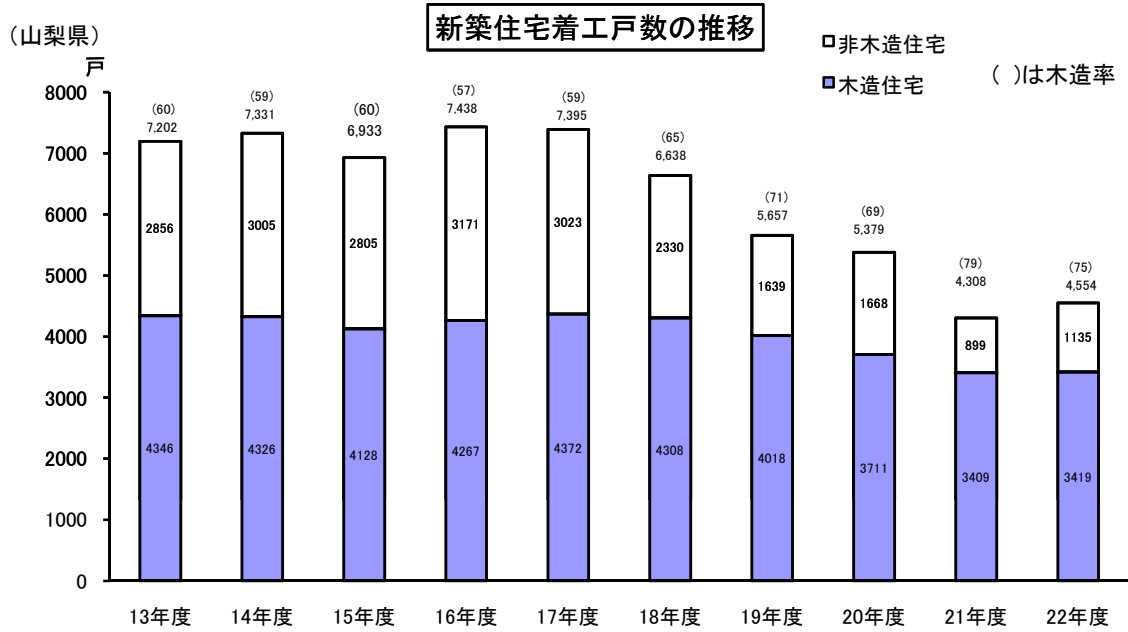


資料：主要木材の需給見通し（林野庁）

用途別需要量の割合



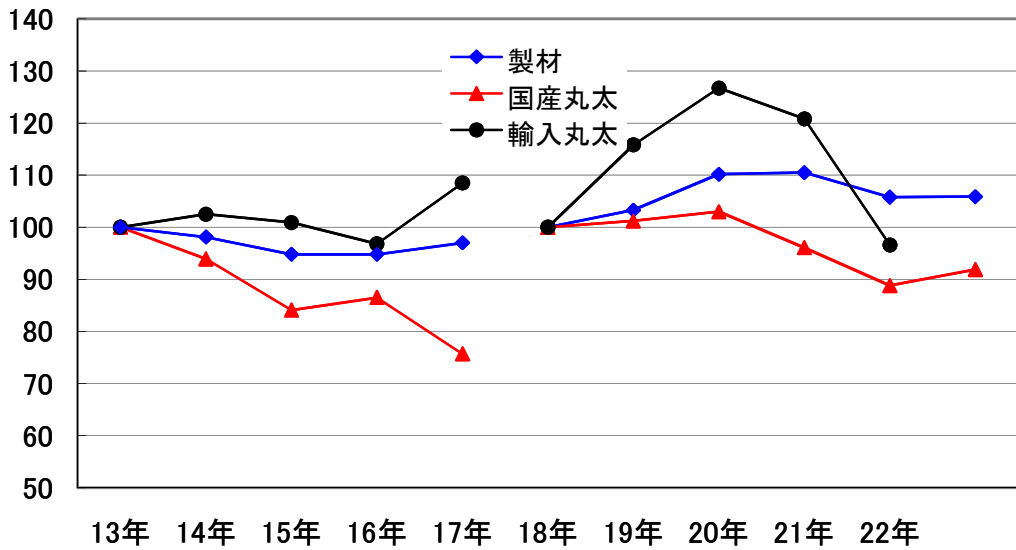
資料：主要木材の需給見通し（林野庁）



資料：国土交通省 住宅着工統計

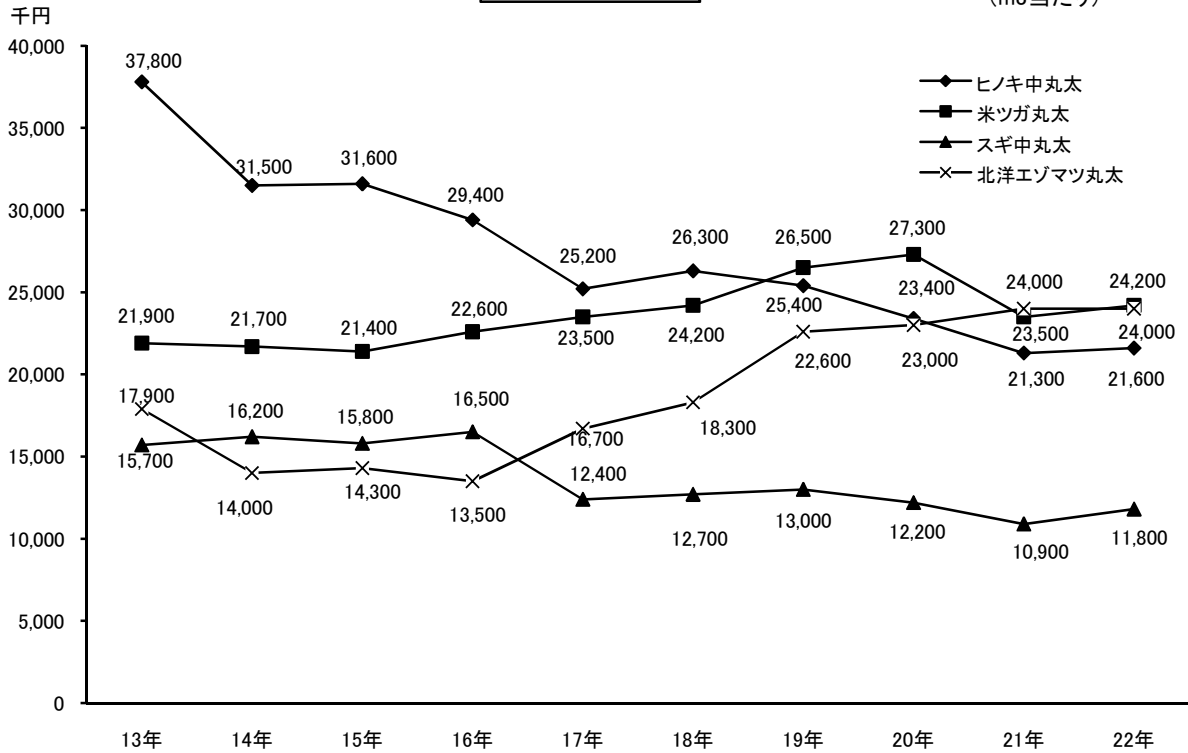
木材価格指数の推移 (全国)

(平均17年平均=100)(平成16年までの年平均値は、平均12年平均=100で算出)



※出典元の国内企業物価指数、輸入企業物価指数が、H12、H17をそれぞれ100として算出しているため、H16-H17間のデータは連動しない。

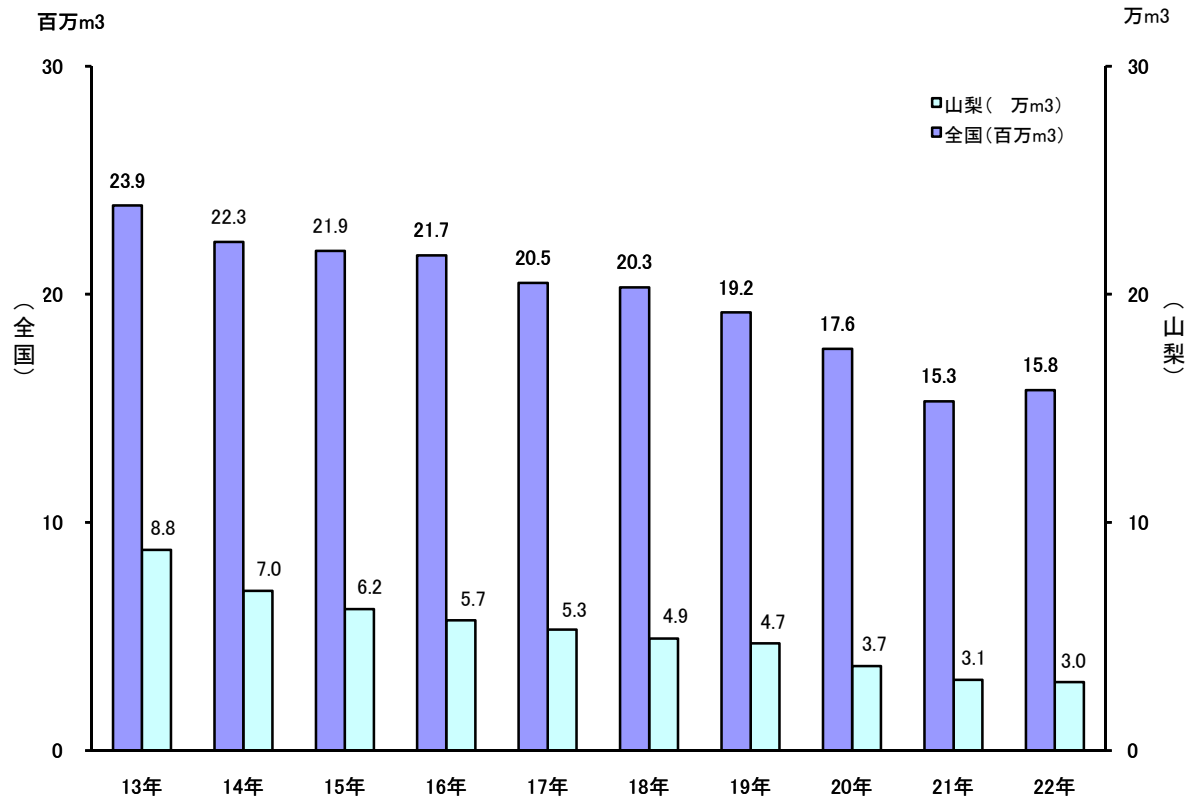
丸太価格の推移 (全国) (m3当たり)



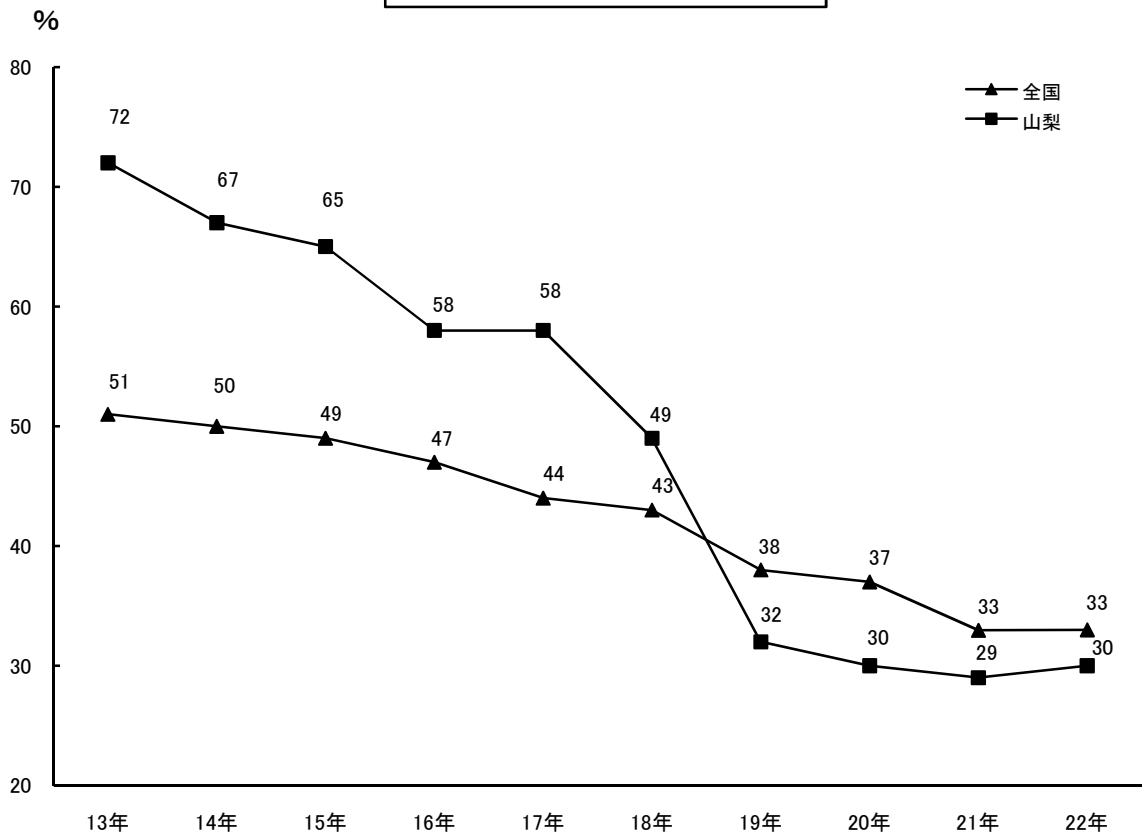
資料:「木材情報」(財)日本木材総合情報センター

19年から北洋エゾマツ丸太については、調査対象地域が変更されたため、それ以前の数値と

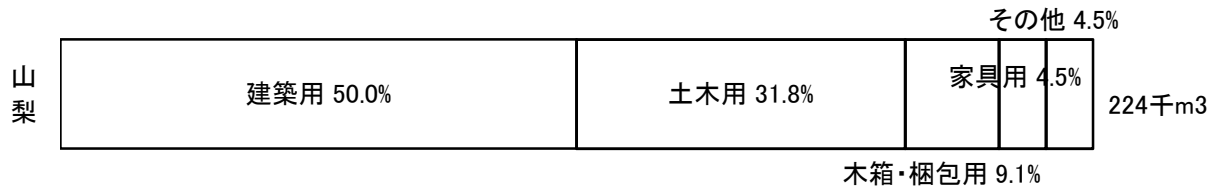
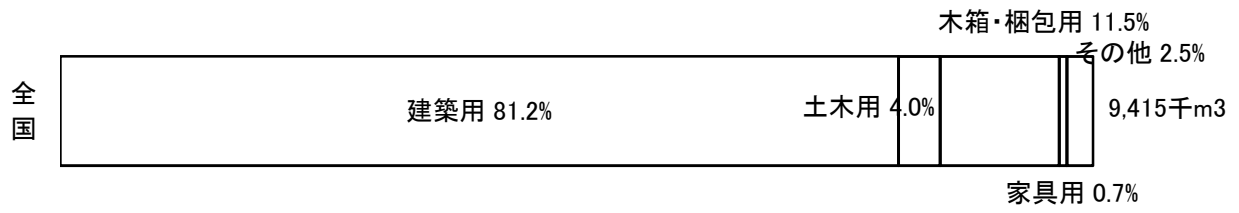
製材用素材の入荷量の推移



製材用素材の外材依存率の推移



製材品の用途別出荷量の割合

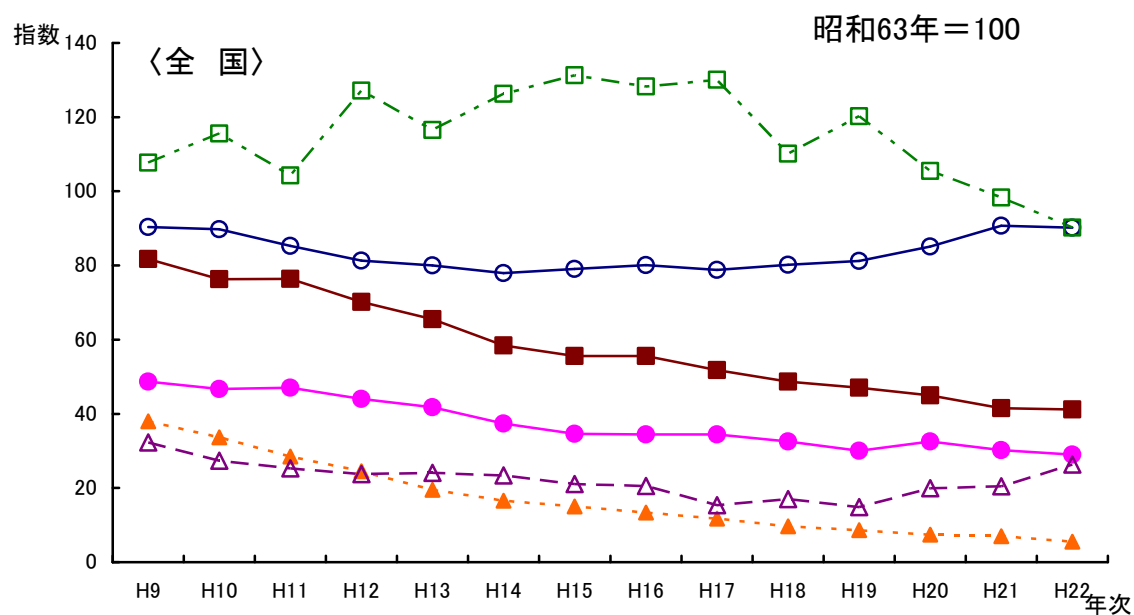
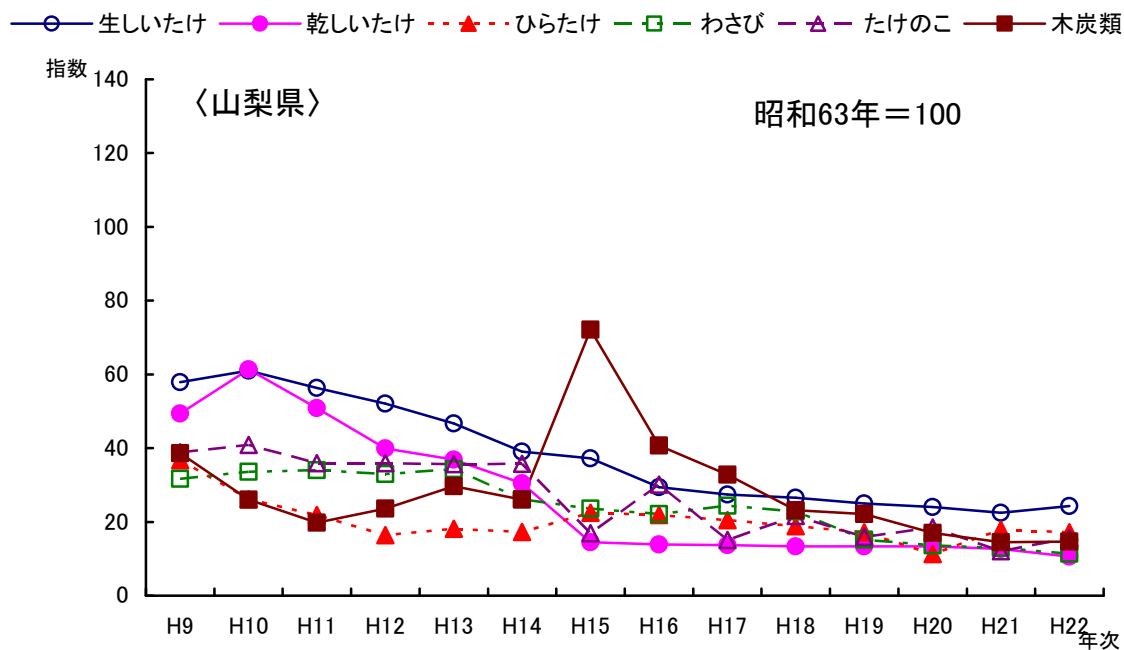


資料：「木材統計」（平成22年）農林水産省統計情報部

3 主な特用林産物の生産量（指数）の推移

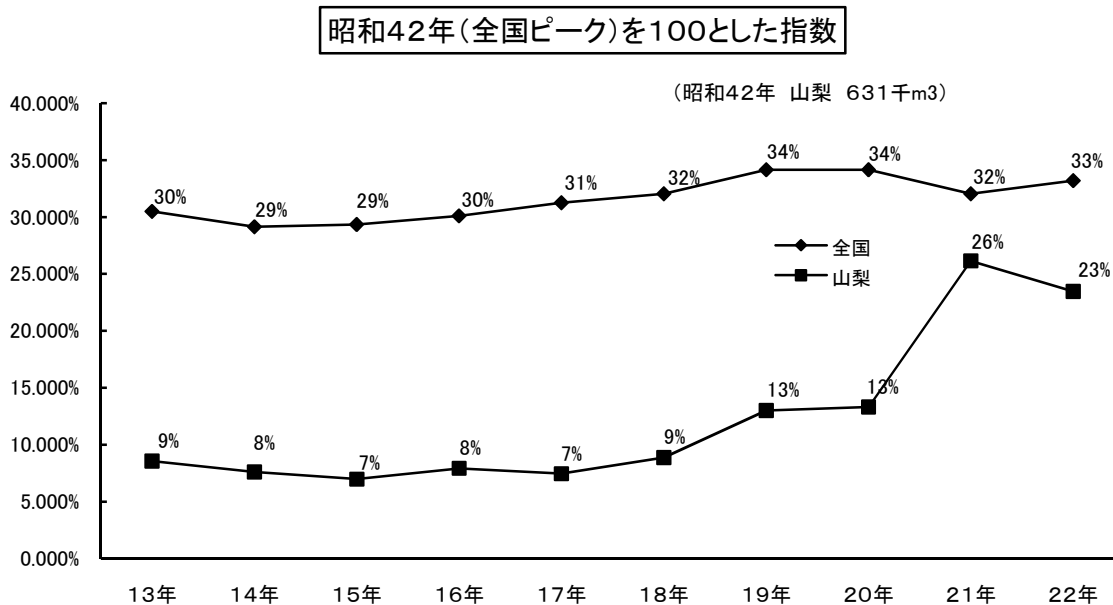
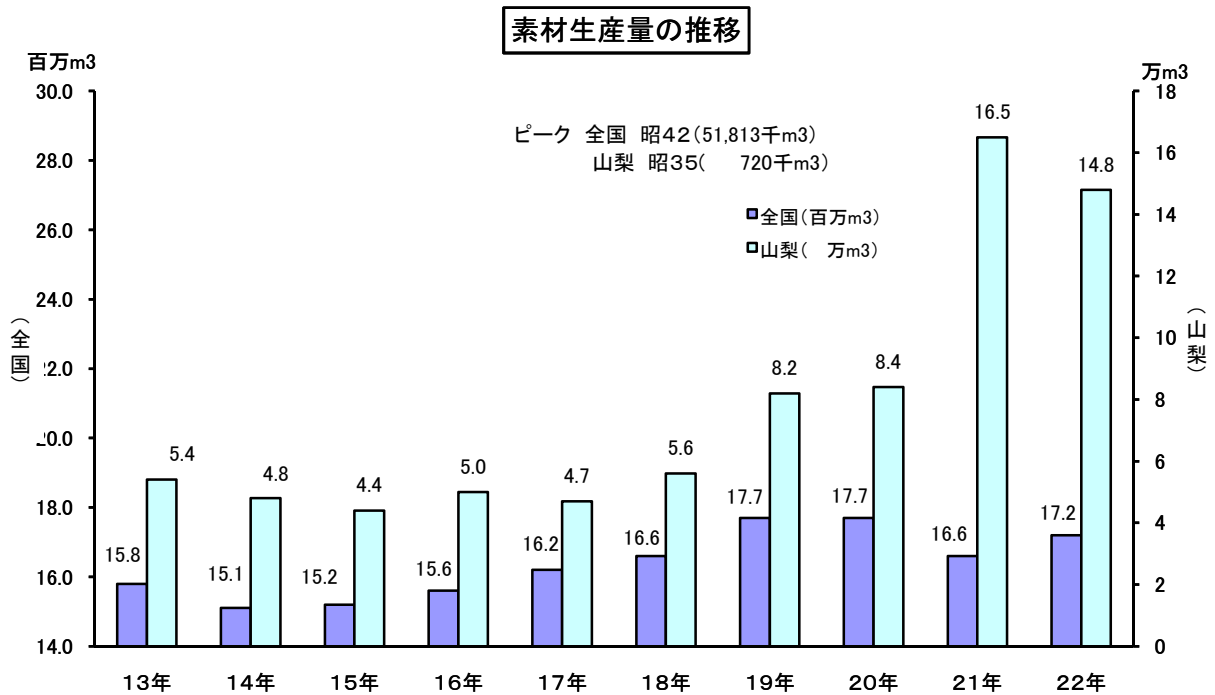
◇<山梨県>農林家の短期収入源として重要な地位を占めている本県の主な特用林産物の生産量は、生産者の高齢化、安価な輸入品の増加などの影響を受け、漸減の傾向が続いている。

◇<全国>生産額の約9割を占めるきのこ類の生産量については減少傾向であったが、主力品目であるしいたけは、近年は微増傾向で推移している。



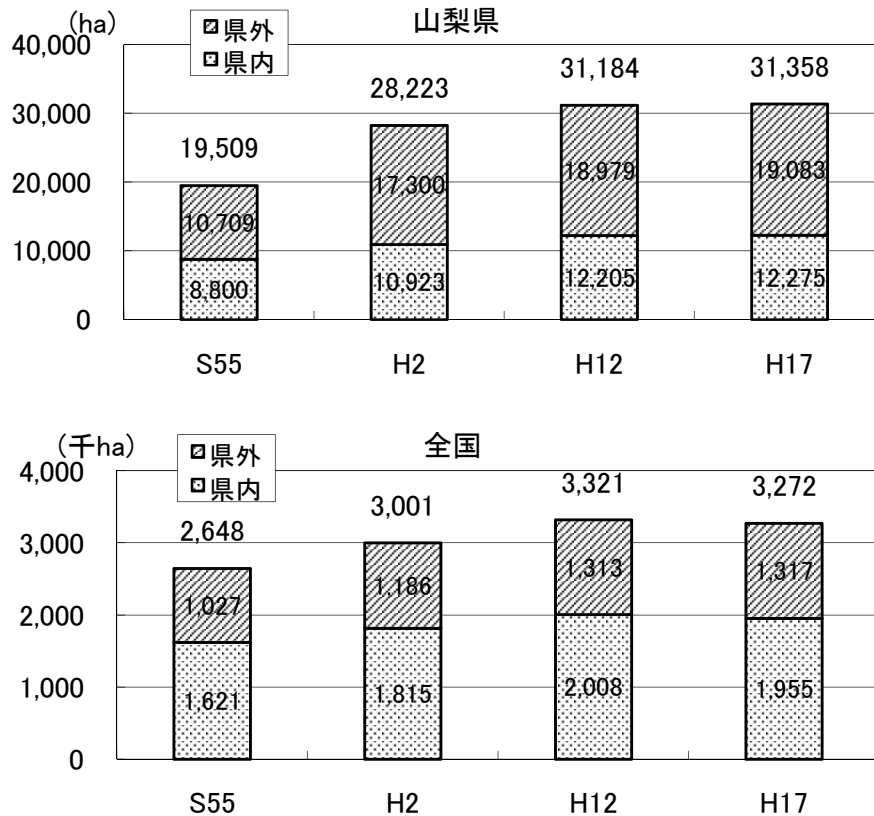
4 林業生産活動の動向

- ◇ 昭和40年代の前半をピークに造林事業をはじめとする林業生産活動は減少を続けている。
- ◇ 林業就業者の動向を国勢調査でみると、その数は、林業生産活動の停滞を反映して減少傾向で推移している。また、新規就労者の定着率が低いため、その年齢構成も高齢化してきている。
- ◇ 低迷していた素材生産量は、人工林資源の充実などにより持ち直してきており、平成21年は対前年比約19.6%と大幅に増加した。



(参考)山梨ピーク(720千m3)時に対する21年次指数=23

不在村者森林所有面積の推移



資料：農林水産省「世界農林業センサス」（1980, 1990, 2000）「農林業センサス」（2005）
 ※2010年度調査から項目除外

(参考)

林家数の推移

全 国			山 梨	
2,531	千戸	昭和55年	25,521	戸
2,509	千戸	平成2年	24,074	戸
1,019	千戸	平成12年	9,812	戸
920	千戸	平成17年	9,324	戸

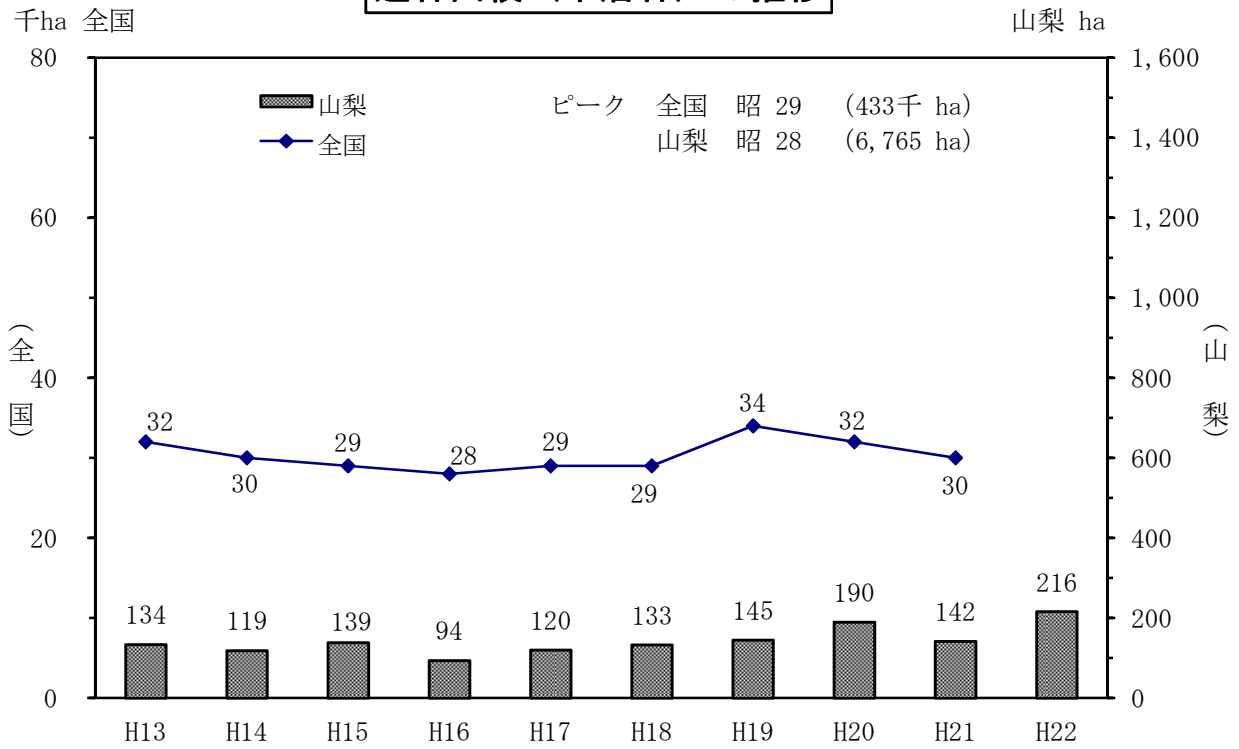
資料：農林水産省「世界農林業センサス」（1980, 1990, 2000）「農林業センサス」（2005）
 ※2010年度調査から項目除外

林家

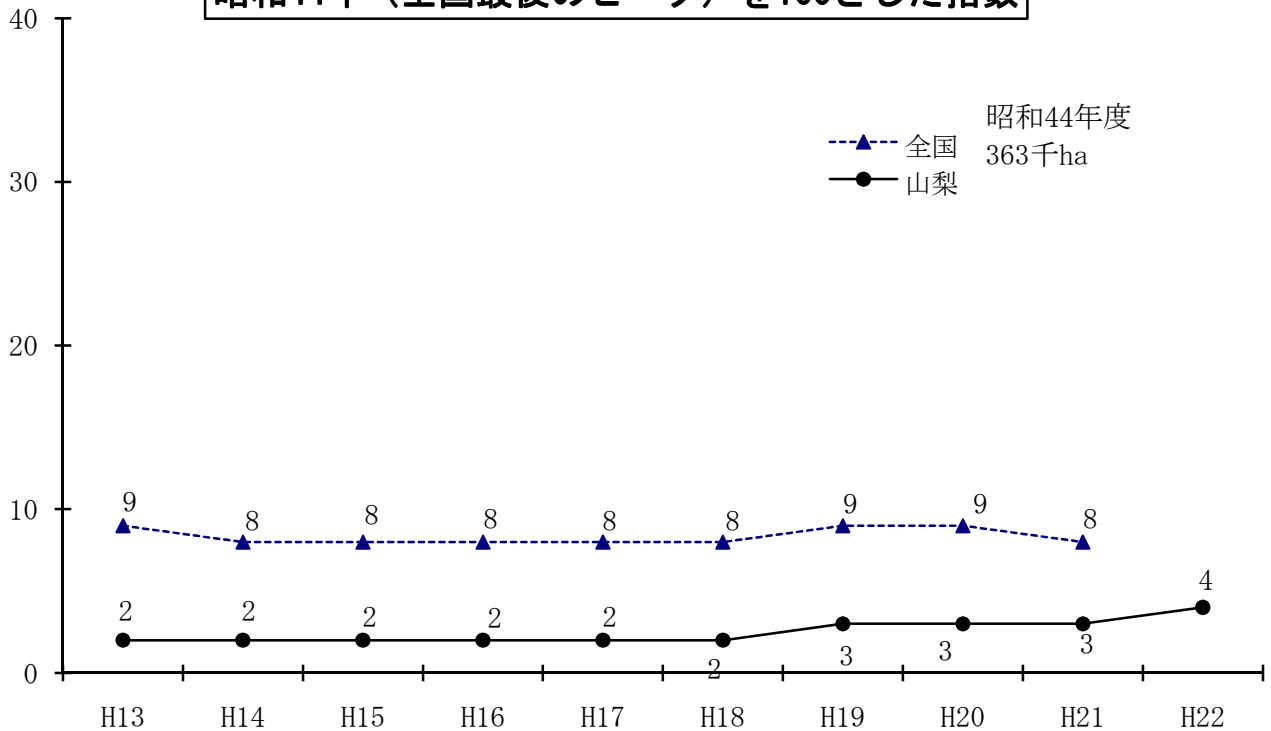
林家とは世帯である林業事業者

- ・（昭和55年, 平成2年）・・・ 保有山林面積が10a以上の世帯
- ・（平成12年, 平成17年）・・・ 保有山林面積が1ha以上の世帯

造林面積（単層林）の推移



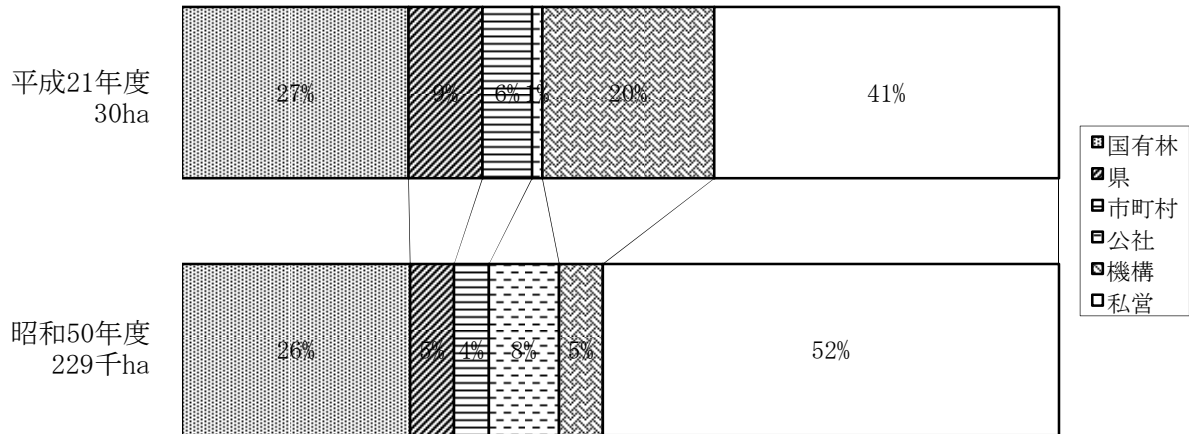
昭和44年（全国最後のピーク）を100とした指数



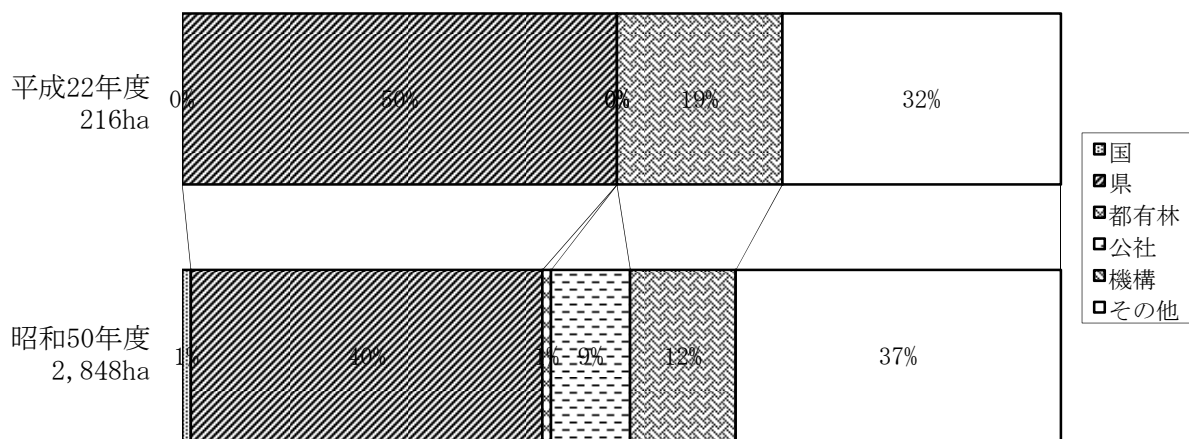
資料：全国のデータは、「森林・林業統計要覧（林野庁編）」より

施行主体別造林比率

全 国



山梨県

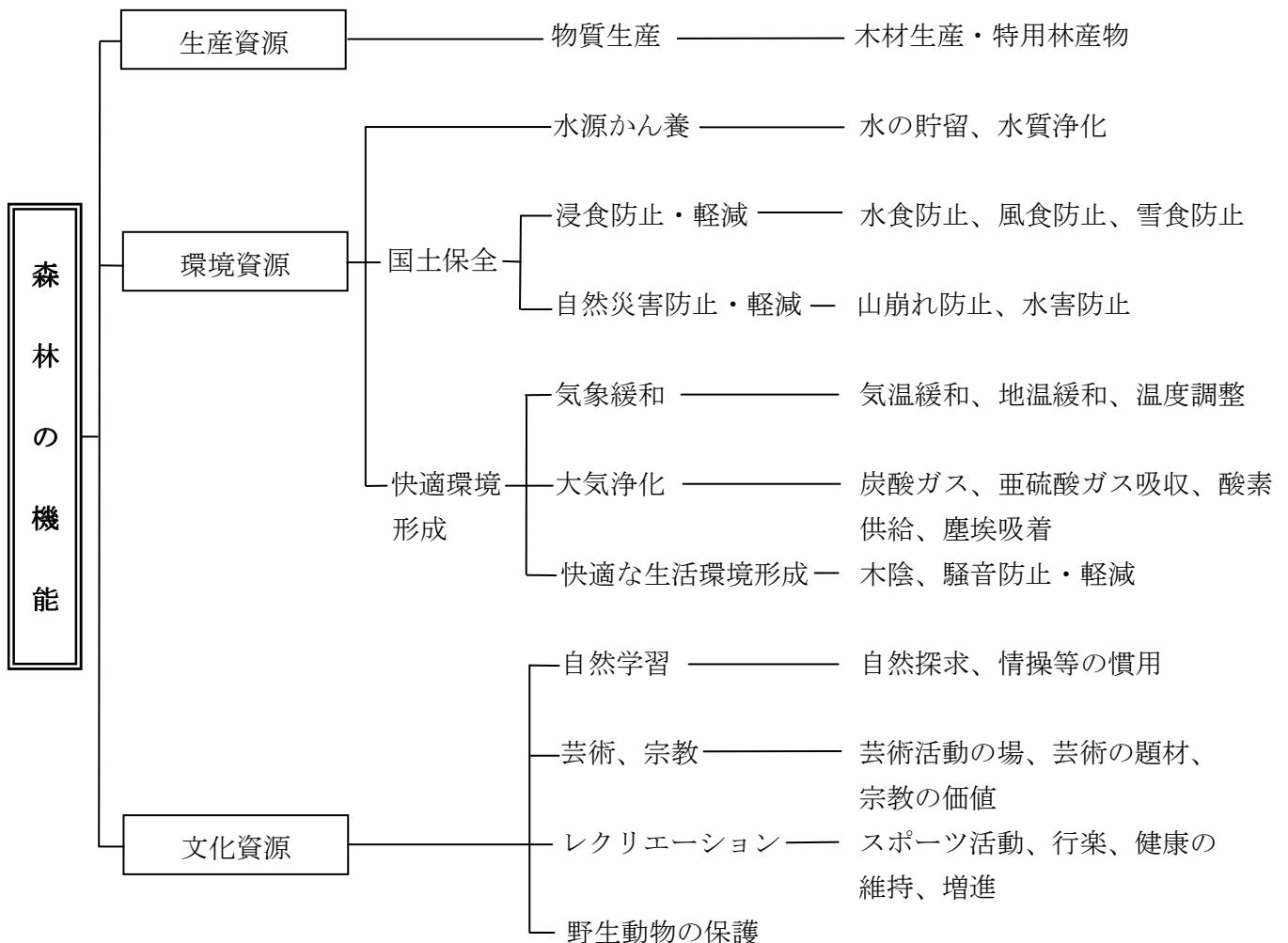


資料：全国は、林野庁「森林・林業統計要覧」より

5 森林・林業の役割

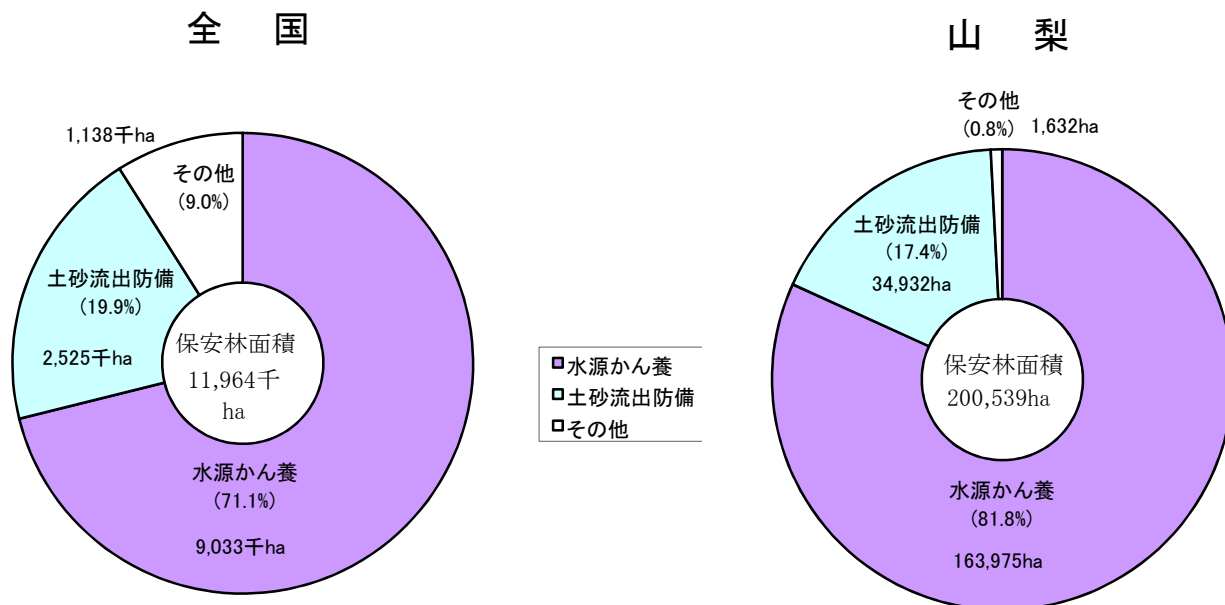
- ◇ 国土の7割を占める森林は、水源かん養、国土保全等の公益的機能、木材生産等国民生活に極めて大きな貢献をしており、本県の森林は、首都圏の水源地としての役割も担っている。
- ◇ 保安林は、国民の暮らしを守るために、特に重要な森林について、国や都道府県が指定した森林のことで、その目的に応じて17の種類に分けて指定されている。
- ◇ 山梨県では、このうち8種類の保安林が指定され、保安林面積は約20万ha（全森林の57%）である。四方を山々に囲まれ、古くから洪水等の災害が多かったため、保安林の指定率では、全国2位である。

森林の多面的機能



◇森林の公益的利用

保安林の種別構成割合



その他内訳

(0.5)	58	土崩	14	(0.0)	(1.0)	123	干害	13	(0.0)	(0.0)	0	防火	26	(0.0)
(0.1)	16	飛砂防備	-	(0.0)	(0.0)	0	防雪	-	(0.5)	58	魚つき	-		
(0.5)	57	防風	158	(0.1)	(0.5)	62	防霧	-	(0.0)	1	航行	-		
(0.0)	1	水害	112	(0.1)	(0.2)	19	なだれ	-	(5.8)	699	保健	1,069	(0.5)	
(0.1)	14	潮害	-	(0.0)	(0.0)	2	落石	3	(0.0)	(0.2)	28	風致	237	(0.1)

(注) 全国は平成22年3月31日現在、県は平成23年3月31日現在の数値である。

全国の内訳面積は延べ面積のため、合計面積とは一致しない。
その他内訳の左側全国(単位:千ha)、右側山梨(単位:ha)

◇林道整備の目標と現況

林道整備目標と現況

全 国		山 梨
261.0 千km	基本計画目標 [全国48年 山梨35年]	2,316 km
131.1 千km	現況延長 [全国18年度末 山梨22年度末]	2,038 km
5.3 m	現在林道密度 (ha当たり)	5.95 m

資料: 全国は、日本林道協会「民有林林道施策のあらまし」(平成20年)
 現在林道密度は、林道のうちの自動車道延長で算出

